

科学技術基本計画に関する日本学術会議会長談話

平成13年3月30日

日本学術会議会長

吉川弘之

1. 今般、科学技術基本法に基づく第2期の科学技術基本計画が決定された。この基本計画のうち、総合戦略に関する重要部分については、総合科学技術会議が戦略性、総合性及び人文科学・社会科学の視点を踏まえて原案を作成されたが、高い見識が示されているものと考えている。この基本計画の策定に尽力された関係者に深く敬意を表したい。
2. 21世紀において、日本が科学技術の面において責任を果たしていくためには、世界の状況とそこでの日本の置かれている立場や社会の中での科学技術の在り方などを十分明らかにした上で科学技術の振興を図ることが重要である。この基本計画は、これらの点についても十分配慮がなされており、関係者の努力を高く評価したい。
3. また、日本学術会議として、勧告、要望を提出し、強くその実現を訴えている大学等の施設の計画的整備、女性研究者の環境の改善がこの基本計画に盛り込まれている他、重要な知的基盤の一つとしての学協会への期待が示されている。今後、政府におかれては、その具体的な施策の実施に積極的に取り組んでいくことを望みたい。
4. 日本学術会議は、人文科学・社会科学及び自然科学にまたがる全学術分野を包括し、学術全体を見渡す立場から様々な活動に取り組んでいるが、特に、学術と社会との関係において人文科学・社会科学が担うべき固有の役割を正しく認識し、人文科学・社会科学と自然科学との諸領域との協同による新しい統合的、融合的な知識の形成に向けていかに社会的責務を果たしていくべきかを明らかにし、具体的に提示していきたいと考えている。さらに、科学技術の振興に関する政策の在り方についてのみならず、社会を動かす様々な分野の政策に対しても、科学に立脚した助言を行う活動を強めていくこととしている。このため、長期的観点から、人類的課題解決のためのジャパン・パースペクティブ(「日本の計画」)の提案や新しい学術体系の提案を含む様々な科学技術政策についての提言を今後行い、社会の科学技術への期待に応えていきたいと考えている。